

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人帯広太陽福祉会		
事業所名	グループホーム 広野の家		
所在地	帯広市広野町西3線152番地		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600151">/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600151</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域協力会により毎年環境整備が行われ今年は東屋も完成した。利用者もすだれを作るなど出来る範囲で携わった。畑を整備し、利用者と共に野菜を作り草取りや収穫を楽しみ、新鮮な野菜で料理を作ったりしている。ニワトリやうさぎ、猫に餌を与えたり小屋の掃除や世話をすることでやりがいや安らぎを感じていただいている。四季折々の風景を見ながら毎日の散歩も楽しみの一つになっている。皆それぞれ役割を持ち出来る事を楽しみながら行っている。自宅で生活しているような自然な姿で日々笑顔で過ごしてもらえる様職員は努力している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成25年12月3日		

日高山脈が見渡せ、四季を肌で感じる事が出来る豊かな自然環境に恵まれた広い敷地には、春から秋まで羊が放され、鶏やウサギ、猫等の小動物が利用者の癒しや生き甲斐に成っています。  
事業所開設にあたり、地域住民が自らの高齢化対策として設立した経緯があり、現在の法人経営になっても地域住民の様々な協力が得られています。  
利用者も協力して地域住民が東屋を造り上げたり、地域住民に向けての公開講座の開催等、地域貢献や相互交流に努めています。  
理念は、法人理念に加えて独自の事業所理念を設定し、馴染みの地域住民の中で自分らしく暮らし続ける事を支援しています。また、記録の大切さを確認し、介護記録と連動した個人記録の工夫・職員の意見や提案を運営面に反映させるシステム作りを行い、職員の意欲向上と、サービスの質の向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 !該当するものに○印	項目	取り組みの成果 !該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の行事に積極的に参加します」を理念におき見える所に掲示し常に意識しながら仕事をしている。	「一人ひとりの生活習慣を尊重し、その人らしい生活をしていただきます」を始め5項目の事業所理念を基に、今年の目標を立て常に意識しながら実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力会があり施設周辺の整備をして頂いている。地域や小中学校の行事にも積極的に参加している。	地域の要請で開設した経緯があり、地域協力会やボランティアが積極的に活動し施設整備や環境整備の協力を得ています。又、保育所の園児が日常的に遊びに訪れ交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に認知症についての公開講座を行ったり、また中学校の職場体験の受け入れも行い認知症について説明した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施し情報開示している。色々な助言を頂きサービスの向上に努めている	運営推進会議は、偶数月の第4水曜日と決め利用者家族、地域住民、地域包括支援センター職員、学識者、ボランティア協力者が出席しています。さらに、状況、行事、活動報告をし意見を得ながら、サービス向上に活かしています。	毎回有意義な会議が開催されていますが、議事録配布は参加者のみとなっています。出席していない利用者家族、職員と情報共有し、サービス向上に繋げる事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解決困難な問題など、地域包括支援センターに相談し助言を頂いている	日常的に地域包括支援センターと連絡を取っていますが、困難事例等有れば市の担当部局へ相談し助言や情報を得て運営に役立てています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態を常に把握し会議などで職員間で確認しあい拘束のないケアを行っている。	管理者、職員は、指定基準における禁止対象となる行為や、身体拘束の弊害について、外部研修や伝達内部研修を行い正しく理解しています。又、毎日のミーティングや会議の中で言葉遣い等について確認しあい身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し職員の知識向上を図り虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。必要性のある方に対しては協力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明書、運営規定等の説明を行い不明な点には対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し意見要望等を聞く会を設け面会時にも対応している	利用者の意見や要望があった時はミーティング時に話し合い職員で情報を共有して活かせるよう取り組んでいます。利用者家族へのお知らせは担当職員からの毎月のお便り、年3回の事業だより「牧歌」の発行、来訪時や年数回の家族会の中で行い意見を得て運営に活かすよう取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案を取り上げるシステムがある。月1回スタッフ会議を行い自由な意見が言い合える様努めている	法人全体で運営や、介護に関して職員からの提案制度があり、採用者には報償が用意されています。昨年は20件寄せられ、広野の家ではAED設置が採用され地域貢献にも役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の適性を見極め、話し合いの元得意分野を生かせる業務分担を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修に参加し会議等で発表し意識や技術の向上を行っている。月に1度課内研修も行っている。また他のグループホームとの交換研修を行いお互いの資質の向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加盟し相互研修等に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者家族の見学や面談などで不安を解消できるように対応し早くなじんでもらえる様工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談を行い要望等を聞き不安の解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の見学面談を行いホームでの生活環境、サービス内容等説明し納得してもらっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活に重点を置き、役割や趣味活動が自由に行えるように配慮している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現状報告を密にし家族と共有できるよう努めている。また月に一度家族にお便りを出し来園できない家族にも状況を報告している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの生活や想いを聞いてなじみのある場所へのドライブも行っている	利用者の馴染みの美容室への通いは利用者家族へも話を伺い関係が途切れないよう支援に努めています。又、お墓参りを希望する利用者にも対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の機会を持ち助け合う関係を作っている。散歩、ゲーム、家事の手伝いなどを通して関わり合いが出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方との関係が継続できるようにホームに来ていただいたり、訪問したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が遠慮することなく何でも話し合えるような信頼関係を築いている。本人の希望に合った生活が築けるよう支援している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向はアセスメントや日常の会話の中で把握し、嘗てつけていた日記の再開等、希望にあった生活が出来るよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し家族からも生活歴を聞き今までの暮らしが出来るよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせながらも持っている力を発揮できるように支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の状態を把握し会議等で意見を出し合いモニタリングを実施し、チームで取り組んでいる	利用者、家族の意向を反映した介護計画を作成し、3カ月毎に見直しをしています。状況変化時には家族や看護師も参加してのサービス担当者会議を開催し状況に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中、夜間とも記録している。介護計画にもとずいて記入することで見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域に即したホームとしての地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流を持っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。又文化的な環境に触れることが出来るよう公共施設、娯楽施設等に外出している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に嘱託医に診察してもらっているが本人の希望するかかりつけ医にも見てもらえる様支援している。看護師も定期的に訪問し適切な医療が受けられるよう支援している	毎週1回系列の事業所から看護師の訪問や、月一度嘱託医へ定期的に受診をし健康管理に努めています。更に必要に応じて総合病院へ紹介を受け適切な医療が受けられる様支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により状態報告しながら適切な指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については医療関係者と連携し入院が長期にならないように配慮している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し本人、家族の希望があれば可能な限りホームで対応できるよう努めている	重度化した場合や終末期のあり方について、利用契約時に、医療行為が必要になるまで、可能な限り終末期の介護が行える事を説明し理解を得ています。時期が訪れたら医師を交え、再度話し合い同意書を交わして支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時にはすぐに対応できるよう研修会にも参加している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急マニュアルと緊急連絡網を作成し夜間を想定した訓練を行っている。近隣の方には定期防災協力員になってもらっている	年2回消防署の指導を得て、夜間想定避難訓練や、通報訓練を、更に職員会議時に避難手順の確認を全員が行い身につけています。近隣住民には緊急連絡網に入って頂き屋外での見守りを役割として協力体制を構築しています。	火災以外の災害対策は今後の課題と成っており、早急な対応と、数ヶ所あるFFストープの上部保護等の対策を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重した対応や声掛けを心がけている。会議等で全職員に意識を徹底させている	管理者、職員は、ミーティング時に話し合い意識を徹底させ利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや、支援を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をしっかり聞いて出来るだけ本人の気持ちを尊重しながら生活していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や家事など本人の気持ちを尊重しながら生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が必要な化粧品、衣類等、職員が代行して購入したり本人と一緒に掛けおしゃれが出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう調理や盛り付け等利用者と一緒にしている	献立は調理する職員が予め利用者の好みや、栄養配分に配慮しながら決めていきます。食事やおやつ、祝い事のケーキはすべて手作りであり、和気あいあいと楽しい食事と成っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙に一人ひとりの食事、水分量の記入を行い健康状態の把握に努めている。変化のある時には看護師と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝時には必ず口腔ケアを行っている。また口腔状態により必要な方は毎食後行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を行って貰っている	利用者一人ひとりの生活・身体・栄養状況記録を時間ごとの排泄表に記載し、パターンを把握しプライバシーに配慮した声掛け誘導を行い自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩等で運動量を増やし出来だけ自然排便が出来るようにしている。玄米、オリゴ糖、センナ等を利用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2か所の浴槽を利用し入浴の長さ体調等に配慮した入浴を行っている足が冷たい方には就寝前に足浴を行っている	大小2ヶ所の浴室があり体調に配慮した入浴支援を行っています。足の冷たい利用者には足浴と、足のマッサージを行い冷えやむくみを取って安眠に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動的な生活を送ることで安眠の確保を図り就寝時間まで楽しむことの工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず読んで副作用には注意をしている。また状態を観察しながら看護師と相談し薬の調整等を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の習慣を尊重し、動物の世話や畑仕事、家事の手伝いなど積極的に行って貰っている。毎日外に出る事で気分転換が図られている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課となっている散歩の他希望に沿って買い物やドライブなど、戸外に出る機会を設けている	利用者のその日の状態を考慮しながら、毎日、散歩に出掛け、外気に当たる事での気分転換を図っています。又、ドライブや温泉での一泊旅行等、季節に合わせた外出支援を心掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方はして頂いている。買い物等で金銭感覚を失わない様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話をかけたいときに掛けてもらい家族との関係が維持できるように努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるために設えを変えたり花を飾ったりして生活感を出している。利用者の状況によっては過ごしやすい環境にする為に部屋の模様替えも行っている	広い窓のある居間からは、雄大な山並みや、広大な畑や牧場が見え利用者の心を和ませています。事業所にはたくさんの小動物がおり利用者の癒しや、役割を担う事に繋がっています。地域住民の協力でソファを数多く配置したり、利用者の希望で一人掛け椅子を配置したり、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者が使いやすいようソファがいくつか置いてあり、気の合った利用者がそれぞれ好きな所に座りおしゃべりを楽しんでいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参していただき、家族の写真などが飾られ、本人が心地よく暮らせる工夫をしている	居室には使い慣れた家具が置かれ、家族の写真や好みの物が飾られて、その人らしい安心して、落ち着ける部屋作りと成っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも多く車いすの方でも歩行訓練が出来るスペースがある		